

# 朝鮮における化学工業主体化の積極的推進について

朝鮮社会科学院経済研究所長  
金哲

こんにち朝鮮民主主義人民共和国(以下、朝鮮とする)の人民は、社会主義経済建設において総力を集中させることに対する党の新たな戦略的路線を高く掲げて、経済建設大進軍を力強く繰り広げている。経済強国建設、経済建設大進軍において、化学工業の主体化に大きな力が注がれている。

敬愛する最高指導者、金正恩同志は次のように述べた。

「化学工業は工業の基礎であり、経済の自立性を強化させ、人民生活を向上させることにおいて重要な役割を果たします」。

朝鮮人民の力強い闘争によって、近年朝鮮では、化学工業の主体化のための闘争で多くの成果が成し遂げられた。国の化学工業を発展させてこそ、人民経済のさまざまな部門で要求される原料、資材の問題を成果的に解決していくことができ、国の経済的潜在力をあますところなく発揚させることができる。

朝鮮労働党と国家は石炭ガス化を実現して、朝鮮の豊富な原料源泉に徹底的に依拠し、化学工業を発展させることを一歩たりとも譲歩できない原則、変わることはない生命線として推進してきた。こうして、朝鮮では最近、南興青年化学連合企業所で無煙炭ガス化による主体肥料生産体系を確立する誇らしい成果を成し遂げた。

南興青年化学連合企業所で無煙炭ガス化による肥料生産体系が確立されたことによって、肥料工業の主体化が輝かしく実現され、肥料生産を画期的に伸ばし、人民たちの食の問題すなわち食料問題を円満に解決することに積極的に貢献できるようになった。無煙炭ガス化による肥料生産体系が確立される前まで、この企業所では肥料生産に必要である窒素と水素を、原油を加工する時の副産物であるナフサに炭酸カリウムを混ぜて熱分解する方法で抽出していた。

原油加工の際に生産されるナフサの量は、原油量のわずか7~9%しかないと言われている。それゆえ、この企業所のすべての生産システムを稼働させようとする、毎年百数十万トンの原油が必要であった。反共和国敵対勢力たちの経済制裁策動が日増しに強化されていく条件で、これだけの量の原油を毎年輸入することは事実上非常に難しい。結局、ナフサだけにこだわれば、いつになっても肥料生産を正常化させることができないこととなっていた。しかし、無煙炭ガス化が実現されることによって、肥料生産に必要な水素と窒素を朝鮮に豊富な無煙炭に依拠して、安全に抽出することができるようになった。

無煙炭ガス化による肥料生産体系を確立するための事業は、興南肥料連合企業所をはじめとする大規模肥料生産基地において力強く繰り広げられている。現在、興南肥料連合企業所では、無煙炭ガス化による肥料生産能力拡張工事が仕上げの段階で推進されている。この工事が完成すると、朝鮮での主体肥料生産の土台はより一層強化されることとなる。

石炭ガス化による肥料生産体系を確立すると同時に、朝鮮の豊富な原料に依拠して、化学工業を成功裡に多方面に発展させるための事業も力強く推進されている。

現在世界的に原油資源が次第に枯渇している事情により、石炭と天然ガスを原料とするC1化学工業を創設して、発展させる方向に向かっている。C1化学工業では、石炭や天然ガスに水と空気を添加して、有機合成の基本原料となる合成ガス(一酸化炭素と水素)を抽出し、それを直接または間接に処理して、メタン、メタノール、エチレン、エタノール、メチレングリコール、プロピレン、ブタジエン、ベンゾール、ガソリン、酢酸などの基礎有機合成製品を作り出すことになる。

原油資源がまだ開発されず、石炭資源

が豊富である朝鮮の条件でC1化学工業を創設して発展させることは、化学工業の自立性と主体性をより一層強化させるための差し迫った要求として掲げられている。朝鮮では、国の具体的条件と世界的な化学工業発展の趨勢、化学工業の自立性と主体性をより一層強化することに対する要求から出発し、C1化学工業を発展させることに大きく力を入れてきた。このため、科学院咸興分院ではメタノールでさまざまな化学製品を生産するための研究基地と研究力量、中間試験工場を立派に確保し、科学研究事業を力強く行ってきた。

現在朝鮮では、C1化学工業を創設するための初段階として、順川地区で数十万トン能力のメタノール生産工程建設が力強く推進されており、その実現で立ちはだかるさまざまな科学技術的問題を自らの力で解決している。C1化学工業を創設することにおいて、核心となるメタノール合成と低級オレフィン合成工程に対する研究が推進されて、加圧ガス清浄体系を新たに確立し、メタノール合成反応器等温式反応器に改造するための科学技術的保証が用意された。

C1化学工業の創設において重要なのは、触媒問題を成果的に解決することである。C1化学工業では、対象となる原料と合成反応が非常に多様かつ複雑であり、ここで使われる反応触媒の種類もまた、非常に多い。石炭と天然ガスから合成ガスを得て、これよりC1以上の有機化学製品を合成しようすると、高性能の触媒が必要となる。我々はC1化学工業を創設し、発展させることにおいて必要なさまざまな触媒も、我々の原料と技術で作りに出すことに成功して、触媒調整能力を段階別に高めることができる確固たる展望が開けている。これとともに、硫酸ナトリウムを出発原料とする炭酸ソーダ生産工程を改善、完備させるための闘争も力強く繰り広げられている。

朝鮮のさまざまな地域で現在まで探査さ

れた硫酸ナトリウム資源の埋蔵量は、実に数億トンに達している。国の豊富な硫酸ナトリウム資源は化学工業において、朝鮮式で炭酸ソーダを生産するための出発原料となっている。

現在世界的に炭酸ソーダは、塩や天然ソーダをもって生産することが一つの趨勢となっている。しかし、朝鮮では、炭酸ソーダと苛性ソーダを生産するのに必要であるナトリウム源泉を硫酸ナトリウムをもって解決する方向で、その工業化を実現するための闘争が力強く繰り広げられている。硫酸ナトリウムは硫酸ナトリウムと硫酸カルシウムの複塩となっているナトリウムとカルシウム

の硫酸塩鉱物であり、それをさまざまな方法で化学処理をすると、炭酸ソーダが得られることになる。

現在朝鮮で行われている硫酸ナトリウムを出発原料とする炭酸ソーダ生産工程では、炭酸ソーダと硫酸肥料、石膏を基本製品として生産することになる。朝鮮の実情に即する主体的な生産方法である硫酸ナトリウムを出発原料とする炭酸ソーダ生産方法がより一層改善完備されると、ガラス生産原料と農業用肥料、セメント生産に必要な化学製品を計画通りにしっかりと生産することができ、化学工業の自立性と主体性はより一層強化される。

敬愛する最高指導者、金正恩同志は朝鮮労働党中央委員会第7期第3回全員会議で全党、全国が社会主義経済建設に総力を集中させることに対する戦略的路線を提示して、その貫徹のための課題と方法を明らかにした。

我々は、社会主義経済建設の力強い推進力である自力更生精神と科学技術を恒久的に堅持し、化学工業をはじめとする経済の自立性と主体性をより一層強化するための事業に総力を集中することによって、この地に世の中の人々が羨む経済強国を必ずや建設するであろう。

[朝鮮語原稿をERINAにて翻訳]